

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500332		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホームコスモス向陽台	ユニット名	ふじ
所在地	仙台市泉区向陽台5丁目16-20		
自己評価作成日	令和3年2月26日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3 年 3 月 26 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>看取り支援がある中で、終末期になってもその人らしい生活が出来るようにしている。普段はベッド上での生活であるが行事などの時はユニット入居者さまと一緒に楽しむことを心掛けている。職員も入居者も共同しての生活であることを理解し入居者さまの状況に合わせ家事のお手伝いなどを一緒に行うようにしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは小高い向陽台住宅団地の閑静な一角にある。職員は「入居者様が笑顔で健康に過ごせるよう、敬愛して支援します」や「出会えた事に感謝し、真心こめて支援します」などユニット毎の理念を毎朝唱和し、心に刻み支援に励んでいる。職員同士のコミュニケーションが良く職場は明るく、協力し合っている。入居者とともに楽しい生活が送れるよう食事やおやつ作り、季節の飾り物などの創作活動を取り入れている。目標達成計画の「運営推進会議を年6回以上開催する」についてはコロナ禍で文書での報告としている。「避難訓練時に職員が入居者を把握している」については訓練時や会議などで確認し達成している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームコスモス向陽台)「ユニット名 ふじ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に「地域福祉の向上」を目指すと共に住民として進んで参加しますと掲げており、唱和して共有し実践に繋がるよう努力しています。	開設時に作ったユニット毎の理念を継続している。「敬愛」「真心」の理念を年度初めに皆で確認している。チームケアを大事にして、入居者主体の生き生きした暮らしを目標に、毎月話し合い、支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりが持てるよう、散歩や外出にて出合った地域の方々に挨拶をし会話することを続けていきながら、良い関係性が持てるよう心がけています。	町内会に加入しており、コロナ禍以前はホームの夏祭りや地域のカフェ等で交流していた。今は、町内会の行事や連絡事項はない。今年1月に隣のデイサービスと一緒に臼と杵を使って餅つきを行い交流した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接のデイサービス、小学校、公園がある事により、地域の方々との交流会や施設行事への参加しており、事業所の特色や取り組み事を伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて運営状況や取り組みを報告し、意見を伺い、そこでの内容を取り入れてサービスの質の向上につなげています。	包括職員や町内会長、民生委員、入居者、家族が出席し1月まで会議を開催していた。3月以降は感染予防の市の通達に基づき、メンバーに2か月に1回ケアの取り組み状況や行事等を書面で届けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	仙台市担当者、包括支援センターと連絡を密に取り、相談や不明な点があった際にその都度連絡確認し意見を頂き、指導を受けております。	地域包括職員に運営推進会議の資料を持参し、運営状況やコロナ感染対策等を話し合っている。仙台市の担当者と介護保険加算等について相談している。市からマスクや消毒液、使い捨て手袋等の支給を受けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ一同内容を理解して身体拘束を一切実施しないケアを実施しております。	3か月に1回身体拘束廃止委員会を開催している。職員が提出した「検討シート」を基に「どうしたの、さっきも行ったでしょう」等の気づきを話し合っている。急に立ち上がった時などに「どうしましたか」と入居者の行動や心理を察知した支援に努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて虐待について学び、日ごろから虐待を起こさぬように努めています。小さな声かけから一つ一つ確認していき、職員同士でも間違った声かけが行われていないかを確認し合っています。	法人の虐待防止研修会に職員が参加している。管理者は仕事の合間や会議、面談等で職員の意向の把握に努めている。虐待についての理解を図り、職員同士が不適切な言動を注意し合える環境にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて権利擁護についての研修を行い学んでいます。制度を活用されている利用者が居ないため、今後の必要に応じて支援していきたいと思ひます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は懇切丁寧に内容を説明し、ご納得いただいた上で記名押印を頂いています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しました。	家族に電話で連絡や報告の際に意見・要望を伺っている。「外出と一緒にしたい」等はコロナ禍で出来ていない。入居者から髪を切りたいことを聞き、法人と契約している理容師に来てもらい、18名全員散髪した。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者並びに管理者が一体となって運営作りが行えるよう、スタッフから面談や会議において意見・提案等を吸い上げ、運営に反映できるよう努めています。	定例会議や年2回の個人面談、朝礼等で意見を聞いている。職員の提案で臼での餅つきを隣のデイサービスと一緒にいった。昇給・昇格に関わる法人のキャリアパス研修制度に、職員は意欲的に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営者ならびに管理者が一体となって働きやすい職場になるよう、面談や人事評価を行い、また各スタッフとも向上心を持ってやるよう目標設定をし実行をしてもらいながら、良い環境で働いていけるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修や毎月のスタッフ研修ならびに本社研修などの機会を設けて、資質向上に努めています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所間連絡会、デイサービス・居宅・GHとネットワークづくりを図り、サービスの質の向上に取り組み初段階です。	法人の管理者会議が毎月行われ、管理者研修が4半期毎に行われている。職員も研修に参加している。他のグループホームの営業状況を聞き、居室の空き情報のチラシを居宅介護支援事業所に置いた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の不安事や要望等に耳を傾け、状況を把握し、ケアに活かしていくための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や不安事に耳を傾け、ご本人様と共にご家族様も支援していけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様ご家族様の要望等を聞き入れ、会話やケアを通じて、何が必要とされているのかを見極め、ご本人様ご家族様の安心に結びついて対応ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の今までの生活歴を把握し、あくまでもご本人様主体のケア、生活のペースや体力・ADLに合わせたケアや支援が出来るよう配慮しています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設入所後もご本人様とご家族様が、継続して繋がりが持てるよう連携を取り共に考え、また、他業種の方々や地域も連携を図りながら支援していけるよう努めています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物品を持参して頂き、ご本人様の居室や手の届くところに置いておき、居心地のよい場所となるように努めています。また、散歩等外出時にはなじみのある場所に行き、思い出していけるような支援を行っています。	コロナ禍以前は洋服の買い物や食事、ドライブ、馴染みの理容師のハンドマッサージ等の楽しみがあったが今はコロナ禍で殆ど出来なくなった。付き合いのあったデイサービス利用者が入居して交流が続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話したり、一緒にレクリエーションを行って楽しんで頂ける様な配慮を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡し状況確認を行っています。施設を変われた場合は、その行先の施設担当者に情報を提供し支え合えるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の出来る事ややりたい事、昔から行ってきたことを把握し、可能な限り実現できるようにケアや支援に取り入れて一緒に行っています。	日々の雑談の中で好きな食べ物や運動、散歩などを把握し支援している。夕方、帰宅したいなど不安を持っている方に「夕飯作ったので食べて行って下さい」と優しく声がけし、食後安心して落ち着いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントでは本人様の状況を把握して自立支援できますように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の心身の状態や、出来る事・出来ない事の把握に努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の現状を把握したうえで、今後の課題とケアの方向性を毎月一回のカンファや毎日のミニカンファを通じて聞き取りし、またご家族様と話し合いをし、その結果を介護計画に活かしていけるよう努めています。	毎月職員と計画作成担当者、管理者がカンファレンスして状態に変化がなければ6か月毎に見直している。消化機能が落ちてきた方に、ご飯をおかゆにし、副食を刻み食にするなど計画書に盛り込み、支援している	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録など記入し、スタッフ間で情報を共有し実践し、経過や結果から方向性や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マッサージや機能訓練などのサービスのご協力を頂きながら対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分とは言えない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週かかりつけの主治医が往診に来てくれる体制を整えています。	入居者全員が月2回協力医を受診している。24時間受診や相談、指示が受けられる。歯科治療は全員完了し今後は訪問指導を検討している。法人の看護師と訪問看護師が来訪し健康チェックにあたっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、常勤の看護師スタッフと報告や記録で連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通じて必要に応じて連携しています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を設けて、入居時や必要時にご家族様と話し合い、方針を共有しています。	入居時に説明し同意を得ている。重度化に伴い医師の説明や本人・家族と話し合っ方針を決めている。昨年2名を看取り、現在2名が看取り介護中である。協力医や看護師と連携し、その人らしい生き方を今まで通り支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づいた研修を行っており、対応できるよう努めています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	基準に基づきスプリンクラーを設置し、避難訓練を実施して災害時に備えています。	屋間の火災想定避難訓練を隣のデイサービスと合同で行っている。デイサービスが避難場所になっている。寝たきりの方や車いすの方の避難が課題になった。町内会長や民生委員から支援の申し出がある。	火災や地震、洪水など災害はいつ来るかわからない。入居者の尊い命を救出するには、不断の訓練が大切である。今後、地域住民の協力を得た夜間想定訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関するマニュアルや認知症研修にて言葉かけや尊厳を学び、一人ひとりを尊重できるようプライバシーが守れるよう努めています。	職員は毎年1回研修を行っている。呼び方はさん付けでしている。失敗時は、傍に行き周りに聞こえないようにトイレに誘導している。入浴は同性介助の希望に応じている。居室はノックして確認してから入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意思表示や自己決定ができるように、例えば水分提供の際は、好きな飲み物を選んで頂くよう声がけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけご本人様の思いやしたい事に配慮しながら、また、ペースに合わせた生活が送れるよう配慮し支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服だけではなく髪型や髭などの身だしなみも配慮して支援しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事づくりなど行ってもらう事が困難になってきておりますが、食器やおぼん拭き、テーブル拭きを手伝って頂ける様声がけ支援行っております。	1週間分の献立を職員が作る。入居者の希望を取り入れ、行事等で寿司やおせち、芋煮を楽しんでいる。お汁粉や焼き芋等おやつと一緒に作っている。仲の良い方や気が合う方が同席し、和やかな食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取量を常に把握し、必要な栄養や水分が摂取できるよう配慮し、本人の体調や嚥下状態も把握しながら食事形態を考え提供し支援行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し清潔保持に努め、必要時は訪問歯科に治療をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り自立した排泄ができるよう声掛けや物品にも配慮し、プライバシーにも配慮しています。	食事前や2時間おき、入居者のそわそわしたサインなどを見て声がけ誘導し、全員トイレを利用している。リハビリパンツの方が布パンツに改善した。夜間は体が動けない方以外は睡眠を妨げないよう個別対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や体調、運動不足など多角的にとらえ、自然排泄が出来るよう支援しています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴表に基づき定期的に入浴ができるようにしていますが、一人ひとりの体調や気分に合わせて柔軟に変更したり、ご本人様が入浴を希望する時間に合わせられるように行っています。	週2回の入浴を計画しているが本人の意向を聞いて入浴している。菖蒲湯やゆず湯、入浴剤を楽しんでいる。寒さや脱衣が嫌いで拒否する方に「暖かい場所へ案内します」と手引きし、無理強いはいしない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明るさや温湿度の管理を行い、かつ個室内での転倒防止にも出来る範囲で努めていき、安心して休んでいただけるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表に基づいた管理を行っています。服薬事故のないようスタッフ間でダブルチェックを実施しています。また、看護師にも内服時間や方法など相談しながら、かつ医師にも相談を行いながら適切な服薬ができるよう支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音行っていた趣味や楽しみごとをご家族様から伺い継続して行っていくことで、メリハリのある生活が出来るよう支援しています。出来る事に配慮した支援をし、手伝い等役割と感覚、活気のある日常を過ごして頂けるよう支援しています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過により実施出来ていない。	近くの公園へ散歩したり、隣のデイサービスとの交流はコロナ禍で少なくなった。敷地内の日光浴や洗濯物干しをしている。恵方巻や毎月のおやつ作り、ひな人形壁飾りや桜の花作り等室内での活動を取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別でのお金の管理を行える方が少なく、施設預かりとしていますが、ご本人様やご家族様の希望に応じて、お小遣いの中から買い物を支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様からご家族様への電話連絡が自由に行われるよう支援しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには、季節感を感じる事の出来る飾りつけを行っており、居心地のよく感じる空間作りに努めています。明るさや温湿度にも配慮行っています。	フロアにテーブルやソファ、テレビ等を配置している。壁に書初めや雛人形の貼り絵等を飾っている。午前のラジオ体操や午後のレクリエーションを行い、テレビを見たり雑談や新聞・読書等思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは話し相手になったり、お互いの相性を考慮して座席を決めています。ご本人様の意思にて席が変わられる事も柔軟な対応配慮を行っています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り馴染みのある物品や写真等持参して頂きご本人様の居室に置き、居心地のよく安心して生活が送れるように配慮行っています。	今までの生活の延長を支援している。使い慣れた布団や枕、箸、コップなどを持参している。備え付けのベッドやエアコン、クローゼットを使用し、仏壇や位牌、家族の写真など置いてある。居室で過ごす入居者は少ない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線の確保や明るさへの配慮を行い、安全に配慮した環境作りが出来るよう工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500332		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホームコスモス向陽台	ユニット名	さくら
所在地	仙台市泉区向陽台5丁目16-20		
自己評価作成日	令和3年3月1日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3 年 3 月 26 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様と一緒に季節感のある行事にて楽しむことができ、また季節に合わせた貼り絵を製作し飾って楽しんで。おやつは手作りのケーキなどを提供し召し上がって頂いたり、季節のフルーツや食材を使用したものを提供し召し上がって頂き、季節を味わっています。また、おやつ等も入居者と一緒に作ったりも楽しく過ごせるよう工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは小高い向陽台住宅団地の閑静な一角にある。職員は「入居者様が笑顔で健康に過ごせるよう、敬愛して支援します」や「出会えた事に感謝し、真心こめて支援します」などユニット毎の理念を毎朝唱和し、心に刻み支援に励んでいる。職員同士のコミュニケーションが良く職場は明るく、協力し合っている。入居者とともに楽しい生活が送れるよう食事やおやつ作り、季節の飾り物などの創作活動を取り入れている。目標達成計画の「運営推進会議を年6回以上開催する」についてはコロナ禍で文書での報告としている。「避難訓練時に職員が入居者を把握している」については訓練時や会議などで確認し達成している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名グループホームコスモス向陽台)「ユニット名 さくら」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に地域との交流についての文言も入っており、毎朝唱和して共有しています。	開設時に作ったユニット毎の理念を継続している。「敬愛」「真心」の理念を年度初めに皆で確認している。チームケアを大事にして、入居者主体の生き生きした暮らしを目標に、毎月話し合い、支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集まりには積極的に参加し、良い関係が築けています。現在、コロナ過により交流は無くなっている。	町内会に加入しており、コロナ禍以前はホームの夏祭りや地域のカフェ等で交流していた。今は、町内会の行事や連絡事項はない。今年1月に隣のデイサービスと一緒に臼と杵を使って餅つきを行い交流した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで地域住民の一員として生活できるよう職員も入居者様に支援していることを報告している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を実施してサービスの運営などについて報告、話し合いを実施しています。	包括職員や町内会長、民生委員、入居者、家族が出席し1月まで会議を開催していた。3月以降は感染予防の市の通達に基づき、メンバーに2か月に1回ケアの取り組み状況や行事等を書面で届けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	仙台市の担当者とは日ごろから密に連絡をとってはいませんが、何か不明な点があれば都度お伺いしております。包括支援センターとは日ごろから良い交流をさせて頂いております。	地域包括職員に運営推進会議の資料を持参し、運営状況やコロナ感染対策等を話し合っている。仙台市の担当者と介護保険加算等について相談している。市からマスクや消毒液、使い捨て手袋等の支給を受けた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	左記について、スタッフ一同内容を理解して身体拘束を一切実施しないケアを実施しております。	3か月に1回身体拘束廃止委員会を開催している。職員が提出した「検討シート」を基に「どうしたの、さっきも行ったでしょう」等の気づきを話し合っている。急に立ち上がったときに「どうしましたか」と入居者の行動や心理を察知した支援に努めている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ一同何が虐待に当たるのかをしっかりと把握して虐待を無意識にも実施しないように努めています。	法人の虐待防止研修会に職員が参加している。管理者は仕事の合間や会議、面談等で職員の意向の把握に努めている。虐待についての理解を図り、職員同士が不適切な言動を注意し合える環境にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	不十分である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は懇切丁寧に内容を説明し、ご納得いただいた上で記名押印を頂いています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しました。	家族に電話で連絡や報告の際に意見・要望を伺っている。「外出を一緒にしたい」等はコロナ禍で出来ていない。入居者から髪を切りたいことを聞き、法人と契約している理容師に来てもらい、18名全員散髪した。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の月例会議においてスタッフとの意見を吸い上げています。	定例会議や年2回の個人面談、朝礼等で意見を聞いている。職員の提案で臼での餅つきを隣のデイサービスと一緒にいった。昇給・昇格に関わる法人のキャリアパス研修制度に、職員は意欲的に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営者、管理者が一体となって働きやすい職場になりますよう、面談や人事評価、目標設定など行っています。キャリアパス制度を導入し整備しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任わかば研修や毎月のスタッフ研修、外部研修などの機会も設けて資質向上に努めています。社内研修もキャリアパス制度の等級により行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不十分である。	法人の管理者会議が毎月行われ、管理者研修が4半期毎に行われている。職員も研修に参加している。他のグループホームの営業状況を聞き、居室の空き情報のチラシを居宅介護支援事業所に置いた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントでは本人様の状況を把握して自立支援できますように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に初期に関しては不安なども多く見受けられるので電話連絡などで傾聴しながら信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期は特に環境の変化に敏感ですので、健康状態をはじめ、離設や転倒にも注意して心身の安定を図っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様のペースや体力、理解力に合わせて、施設側の都合で介護が終わるような事にならないように配慮しています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か問題が発生した場合は、家族様ともしっかりと連携して一緒に考え、対応するようにしています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	極力なじみの物品を持って来て頂き、自室が本人様にとって居心地の良い場所になるように努めています。	コロナ禍以前は洋服の買い物や食事、ドライブ、馴染みの理容師のハンドマッサージ等の楽しみがあったが今はコロナ禍で殆ど出来なくなった。付き合いのあったデイサービス利用者が入居して交流が続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂のお席は仲の良い入居者様が並んで会話をしやすいように相性にも配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡し状況確認をしています。施設を変わった場合はその先の施設の担当者へ情報を申し送りしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る事、趣味活動などやりたい事が可能な限り実現できますよう支援しています。	日々の雑談の中で好きな食べ物や運動、散歩などを把握し支援している。夕方、帰宅したいなど不安を持っている方に「夕飯作ったので食べて行って下さい」と優しく声がけし、食後安心して落ち着いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントでは本人様の状況を把握して自立支援できますように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントでは本人様の状況を把握して自立支援できますように努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスを実施して介護員、管理者、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月職員と計画作成担当者、管理者がカンファレンスして状態に変化がなければ6か月毎に見直している。消化機能が落ちてきた方に、ご飯をおかゆにし、副食を刻み食にするなど計画書に盛り込み、支援している	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子記録やカンファレンス時に見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マッサージや機能訓練などのサービスのご協力を頂きながら対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分とは言えない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週かかりつけの主治医が往診に来てくれる体制を整えています。	入居者全員が月2回協力医を受診している。24時間受診や相談、指示が受けられる。歯科治療は全員完了し今後は訪問指導を検討している。法人の看護師と訪問看護師が来訪し健康チェックにあたっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、常勤の看護師スタッフと報告や記録で連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通じて必要に応じて連携しています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を設けて入居時や必要時にご家族様と共有しています。	入居時に説明し同意を得ている。重度化に伴い医師の説明や本人・家族と話し合っ方針を決めている。昨年2名を看取り、現在2名が看取り介護中である。協力医や看護師と連携し、その人らしい生き方を今まで通り支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づき研修を行い、対応できるようにしています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	基準に基づきスプリンクラーを設置し、避難訓練を実施して災害時に備えています。	屋間の火災想定避難訓練を隣のデイサービスと合同で行っている。デイサービスが避難場所になっている。寝たきりの方や車いすの方の避難が課題になった。町内会長や民生委員から支援の申し出がある。	火災や地震、洪水など災害はいつ来るかわからない。入居者の尊い命を救出するには、不断の訓練が大切である。今後、地域住民の協力を得た夜間想定訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関するマニュアルを整備して入居者様の尊厳が守られるように努めています。	職員は毎年1回研修を行っている。呼び方はさん付けでしている。失敗時は、傍に行き周りに聞こえないようにトイレに誘導している。入浴は同性介助の希望に応じている。居室はノックして確認してから入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着る服や食べたいもの(選択食)出来る限り本人様の選択を重要視して対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの体力や認知状況を鑑み、画一的な日課ではなく、一人ひとりのペースを守っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服だけではなく髪型や髭などの身だしなみも配慮して支援しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、活かしきれしていないが、職員と一緒におやつを作ることを行っている。食器拭きなどはその日により担当を決め行っている。	1週間分の献立を職員が作る。入居者の希望を取り入れ、行事等で寿司やおせち、芋煮を楽しんでいる。お汁粉や焼き芋等おやつと一緒に作っている。仲の良い方や気が合う方が同席し、和やかな食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と体調を把握して必要な栄養、水分が摂取できるよう食事形態にも配慮し支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し清潔保持に努め、必要時は訪問歯科に治療をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り自立した排泄ができるよう声掛けや物品にも配慮し、プライバシーにも配慮しています。	食事前や2時間おき、入居者のそわそわしたサインなどを見て声がけ誘導し、全員トイレを利用している。リハビリパンツの方が布パンツに改善した。夜間は体が動けない方以外は睡眠を妨げないよう個別対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や運動の不足、腸の働きなど多角的にとらえ、自然な排便ができますよう支援します。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴表に基づき定期的に入浴できるようにしていますが、曜日や時間をスタッフが決めるのではなく体調やご気分に合わせて柔軟に変更しています。	週2回の入浴を計画しているが本人の意向を聞いて入浴している。菖蒲湯やゆず湯、入浴剤を楽しんでいる。寒さや脱衣が嫌いで拒否する方に「暖かい場所へ案内します」と手引きし、無理強いはいしない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明るさや温度管理にも配慮し、且つ個室内での転倒防止にも出来る範囲で努めて安眠の支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイルにまとめ、いつでも閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔の趣味(読書や体操など)を家族様に伺い、出来る限り個別の楽しさを感じて頂けるように支援しています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過により実施出来ていない。	近くの公園へ散歩したり、隣のデイサービスとの交流はコロナ禍で少なくなった。敷地内の日光浴や洗濯物干しをしている。恵方巻や毎月のおやつ作り、ひな人形壁飾りや桜の花作り等室内での活動を取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別でのお金の管理を行える方が少なく、施設預かりとしていますが、ご本人様やご家族様の希望に応じて、お小遣いの中から買い物支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の声が聴けるように希望のある方には電話支援を実施しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある雰囲気作りはスタッフと入居者様が一緒に取り組んでいます。明るさにも配慮しています。	フロアにテーブルやソファ、テレビ等を配置している。壁に書初めや雛人形の貼り絵等を飾っている。午前のラジオ体操や午後のレクリエーションを行い、テレビを見たり雑談や新聞・読書等思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方、互いの相性を考えて共用空間の席やソファの配置に配慮しています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り昔なじみの写真や服などを持参して頂き、安心できる環境づくりの声かけをして頂いています。	今までの生活の延長を支援している。使い慣れた布団や枕、箸、コップなどを持参している。備え付けのベッドやエアコン、クローゼットを使用し、仏壇や位牌、家族の写真など置いてある。居室で過ごす入居者は少ない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広い施設ではありませんが、同線の確保や明るさへの配慮、分かりやすい表示に配慮しています。		